

構成する施策

- 19 特徴を生かした都市緑化の推進
- 20 公園・緑地の整備と管理運営
- 21 農地の保全と活用

政策6 身近な緑と遊びの空間

目標

都市における身近なレクリエーションや自然とのふれあいの場として、また、防災、環境保全、景観構成などの機能を持つ緑地や公園の整備、都市空間にやすらぎを与える農地の保全を図っていきます。

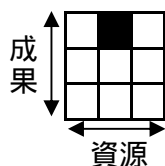
基本方針

土地利用形態の特性を生かした市街地の緑化を進めます。
公園緑地の整備を進めるとともに、市民による管理や運営による特徴ある公園づくりを進めます。
都市における緑の空間、防災空間の役割も有する農地を保全できるような仕組みづくりを進めます。

考え方

政策の方向性

箕面市市民満足度アンケートにおいては、重要度は低く、満足度は高いため、市民ニーズ度は低くなっている。しかしながら、本市の特徴である良好な環境を維持し続けるため、市民自らの手で地域の特性に合わせた公園づくりを進めるなど、今後も市民との協働を進めながら、成果を「向上」していくこととし、手法の見直しなどを進めて、資源は「維持抑制」するものとする。



成果	向上
資源	維持抑制

社会状況の変化

市民の防災意識やアドプト活動等への関心の高まりが期待される一方、農地については、農地転用により、市街化区域を中心に農地面積の減少等が今後も進むと考えられる。

これまでの取り組み

・公園・緑地等におけるアドプト活動を活性化することで、市民の主体的な取り組みや参加団体数が増加した。
・ふれあい農園開設事業等により、市民と農業者との交流という観点からは一定の効果が見られた。

課題

・特徴を生かした都市緑化の推進では、街路樹の維持管理に係る経費が増大しており、改善が必要である。
・公園施設の老朽化が進んでいるが、厳しい財政状況等の理由により再整備が進みにくくなっている。
・農地の保全については、ふれあい農園等の事業が農地所有者にとって必ずしも利用しやすい制度となっており、改善が必要である。

成果指標名

基準値 → 目標値

指標	アドプト活動か所数	120 か所 → 140 か所
根拠	身近なみどりに対する愛着を深め、緑の育成を促進し、緑化に対する意識を測るため、アドプト活動か所数を指標とする。アドプト制度導入当初は、相当数の認定があったが、今後は年5か所程度の増加を見込み、140か所を目標とする。	
指標	市民参加による公園管理の割合	41.7 % → 43.0 %
根拠	公園の適正な維持管理及び再整備には市民との協働が不可欠であるため、市民の公園にかかわる意識の高まりとその広がりを促進することを指標とする。公共空間におけるアドプト活動等の周知、認定団体の活動等のPRなどによる、今後の市民の意識の高まりと高齢者の増加を考慮し、活動団体の増加(2～3団体/年)とともに公園・緑地数増加(4公園・緑地/年)が見込まれるため、43.0%を目標とする。	
指標	農地保全面積	122.7 a → 250.0 a
根拠	転用等による農地の減少や遊休農地の増加をゆるやかにするため、市民農園を中心とした、自作によらない、農地の保全・活用方法の促進を図る農地保全面積を指標とする。農作業ができない農業者や高齢化等により自作が困難となった農業者を対象とし、開設面積の平成18年度比倍増をめざし、250.0アールを目標とする。	